

令和6年度 自己評価表 坂町立坂中学校 ～「本気」と「感動」～

中期経営目標	短期経営目標	評価項目(具体的な取組・方策)	評価指標	参考値 (令和5年度)	目標値	実績値		評価 (自己評価の結果)	成果と課題	改善策
					令和6年度	中間	最終			
【確かな学力】 主体的に学び、これからの社会に必要な学力を身に付けた生徒の育成	基礎的な学力の定着	・「わかった!」「できた!」が実感できる授業づくり(特別支援教育の視点) ・ドリルタイムの充実 ・定期試験前の質問教室の設定 ・安心して学べる学習環境の確保	①生徒アンケート「先生の授業がわかる」 ②標準学力調査	①83.0% ②【標準スコア平均】 旧6年 52.3 旧1年 53.2 旧2年 53.8	①85% ②同一集団で昨年度よりもアップ	① 85.3% ② 1月実施予定	① 85.0% ② 1年 52.3 2年 51.9 3年 55.2	B	○「先生の授業がわかる」と回答した生徒の割合が85.0%で、中間値より0.3%減少したが、目標値を達成することができた。また、昨年度の結果より2.0%増加した。生徒に教えるべき内容を、特別支援教育の視点を取り入れながらしっかり教えることを各教科で実践している成果であると考えられる。 ●全体としては目標値を達成できたが、学年や教科によっては、大きなばつぎがあった。	・来年度、AI自動採点システムを本格導入し、採点業務にかかる時間と労力を削減していく。採点業務の負担が軽減することで、小テストや単元テストのフィードバックが容易になること、教材研究の時間を生み出せることなどの効果が期待でき、生徒の基礎的な学力の定着につながると思われる。
	これからの社会に対応した学力の定着	・ICTの効果的な活用 ・協働的な学びや振り返り活動の充実 ・安心して学べる学習環境の確保	教職員アンケート「授業の中で、ICTの活用や協働的な学びを取り入れた学習活動を展開している」	「授業の中で、ICTの活用や協働的な学びを取り入れた学習活動を展開している」 80.8%	85%	100%	100%	A	○授業交流週間、ICTの活用に関わる研修等を通して、各教職員がこれまで積み上げてきた授業実践に、ICTのどのように活用できるかを意識し、創意工夫して学習活動を行っている。 ●ICTの活用について「よくあてはまる」「あてはまる」と回答した割合は100%であったが、「よくあてはまる」の割合は26%であった。ICTの活用を生徒の深い学びや協働的な学びにつなげることに課題がある。	・「あてはまる」と回答している教職員が多いことから、ICTの活用について目的を達成するために、ICTの活用が本当に必要なのか、ICTの活用が焦点化されるかなど、ICTの活用に関するチェック項目を整理し、効果的な活用であるかフィードバックできるようにする。
【豊かな心】 自らを律し、自分や友だち、家族やふるさとを大切にすることをもちった生徒の育成	礼節の向上 ・挨拶 ・黙動清掃	・全教職員による日々の粘り強い指導 ・委員会活動など生徒の自治活動の推進	生徒アンケート「心のこもったあいさつ」「感謝の気持ちをもった掃除」	【挨拶】「心のこもったあいさつをしている」 91.6% 【黙動掃除】「感謝の気持ちをもって掃除をしている」 89.9%	①90% ②90%	①89.9% ②90.6%	①92.8% ②90.1%	B	○すれ違う生徒は比較的好いあいさつをする。地域の方から、坂中の生徒がよくあいさつをしてくれるという声があった。 ●あいさつの声が小さい。 ○生徒は黙って動いて掃除をしている。 ●感謝するまでには至っていない。	・委員会で課題として取り上げ、改善策を考えさせ、生徒発信でよりよいものにしていく。 ・教員が生徒の模範となるべく、自ら挨拶し、黙動清掃につききる。
	自他を大切に する心の育成	・防災教育の推進 ・わいがやタイムの実施 ・部活動の充実 ・道徳の時間の充実	生徒アンケート「自他を大切に して行動できる」	「自他を大切に して行動している」 99%	99%	97.1%	97.7%	B	○防災教育では、3年生が防災についてディベート大会をし防災について意識が高まった。 ○道徳の授業を副担任もすることができた。 ○わいがやタイムでは、昨年より学年をまたいで交流することができた。	・現状に満足することなく、生徒がより自他を大切にできるように具体案を出し、取り組んでいく。
【たくましい体】 社会で生きて働くためのたくましさをもった生徒の育成	心身の健康の保持増進	・各種たよりによる保護者・生徒への啓発 ・部活動の充実	生徒アンケート「充実した部活動ができている」	「充実した部活動 ができている」 88.6%	90%	83.1%	81.6%	C	●運動部、文化部ともに充実していると感じている生徒は多いが、生徒同士の人間関係のトラブルが生じた部活動もあった。 ●転部を希望する生徒が何人かいた。	・継続して、顧問及び部活動指導員が生徒につききることにより、生徒の様子や状況を把握する。 ・部活動指導員と密に連携し、円滑に部活動を運営する。
	基本的な生活習慣の定着	・各種たよりによる保護者・生徒への啓発 ・SNSやゲームの使用に係る指導	生徒アンケート「各家庭で決めたスマホ・タブレット等を利用する時間を守っている(TV・ゲームを含む)」	【新規】	70%	67.5%	65.6%	B	●アンケート項目に対して、まったくあてはまらないと答えた生徒が10.5%いた。	・スマホ・タブレットの利用時間が長いと生じるデメリットを伝えていく。
【信頼される学校】 保護者から信頼される学校づくり	積極的な情報発信	・ホームページや一斉メールによる情報発信 ・電話や家庭訪問を通した日常的な保護者との連携	保護者アンケート「坂中の教育活動に満足している」	「坂中の教育活動に満足している」 86.4%	87%	87.2%	89.3%	B	○年間を通して学校だよりを20号発行し、随時HPを更新した。また、不審情報等、緊急を要する事案について、一斉メールを使って迅速に発信するようにした。 ○担任や顧問を中心に、欠席時の連絡や学校の様子等を丁寧に連携した。	・ホームページや一斉メール、便り等を通して、学校の様子や生徒の姿をタイミングよく発信していく。また、行事や授業参観等、保護者に来校していただく機会を学期に2回以上設定する。 ・引き続き、教職員全体で、丁寧に保護者対応を行っていく。
	主任層を中心とした活力ある職員集団の形成	・運営委員会等を活用した人材育成 ・面談等による役割や研修内容等の確認 ・管理職による日々の声掛け ・時間外勤務の適正管理	業務改善アンケート「子供と向き合う時間が確保されている」 入退校記録簿 月平均の時間外勤務が昨年度よりも多い教職員	業務改善アンケート「子供と向き合う時間が確保されている」 80.3% 【新規】	80% 0人	78.3% 4人	92.3% 3月に集計	A	○「子供と向き合う時間が確保されている」の項目について、前回より数値が上がり、目標値を大幅に上回った。 ○電話対応の時間設定や管理職による日々の声掛け等により、早く退校する雰囲気醸成されており、全体的に時間外勤務は減っている。	・今後も、主任層が企画したことを積極的に取り入れ、校内の活性化につなげていく。 ・ICTの効果的な活用を更に推進するとともに、部活動指導員の運用を充実させる等、学校全体でアイデアを出しながら業務改善を進めていく。

【自己評価 評価基準】 A:目標は十分達成された(目標値+5%以上) B:目標は達成された(目標値±4%) C:目標は達成されなかった(目標値-5%以下) D:目標は全く達成されなかった(目標値-10%以下)